

富山市のくすり関連施設基本構想が発表される**「薬都とやま」発信拠点を目指し建設を計画**

発行：日本置き薬協会 事務局

森 雅志富山市長が推進する「コンパクトシティ構想」は、市中心街に如何に独自の発信力あるコンテンツを揃えるかが課題。市は県と協力しながら多様な施設開設に取り組み、一昨年、「富岩運河環水公園」そばに新たに竣工、開館させた「富山県美術館」、また市民活動が端緒となったガラス工芸の作品を収蔵する「富山市ガラス美術館」もある。とやまのレガシーである「くすり」、そして全国一の生産額を堅持する製薬業を控える地域として、3月に「くすり」をコンテンツとする市立の展示施設の設置計画が発表された。

○基本構想

基本理念 富山のくすりの歴史と文化、精神を継承し、薬都の未来を市民とともに創造する＝300年以上続く薬都とやまの歴史と文化、大切にされてきた精神を継承し、「信用三本柱」（商いの信用・くすりの信用・人の信用）が優れた理念であることを踏まえ、これらを軸として薬都とやまに未来像を考え、ともに創造することが求められる。

基本方針 1. シティブランディング（「薬都とやま」のブランドイメージを強化する） 2. シビックプライド（富山の産業の礎を築いた先人の智恵を学び富山人としての誇りを育む場を創出する） 3. 賑わい・回遊性（中心市街地の賑わいと回遊性を生み出す拠点を創出する） 4. 産学官民連携（産学官民の連携による「薬都とやま」の未来像を描く）

具体的内容 展示イメージ＝「薬都とやま」のブランディングコアデアル「信用（商いの信用・くすりの信用・人の信用）」を軸に1. 薬都を感じる 2. 歴史を感じる 3. 文化を感じる 4. くすりをを感じる 5. 未来を感じる—の五つのゾーンから構成する。

1. 「薬都を感じる」では、薬都とやまの現在の姿を知り、富山を感じ、未来の薬都を創造する
2. 「歴史を感じる」では、富山の売薬さんの歴史を史料や実物資料で分かり易く展示し歴史を感じて貰う
3. 「文化を感じる」では、富山売薬に纏わる文化的資料等を紹介する
4. 「くすりをを感じる」では、くすりの素材や仕組み、技術、デザインなど、くすりを五感で感じて貰う
5. 「未来を感じる」では、未来創造の展示を体感し、未来への関心を高め、ともに創造する機運を高めるほか、製薬のバーチャル体験や新しい薬を創造する体験等を通して、薬の未来への関心を高める。

○基本計画等

機能と事業計画等 1. 展示・体験機能（展示事業・解説事業） 2. 交流・サービス事業（薬都案内サービス事業・催事事業・飲食物販売事業・資料収集活用事業） 3. 未来創造事業（情報発信事業・産学官民連携事業）

展示計画 省略

施設計画 省略

管理運営における方針と取り組み 市民の参画を促し
市民とともに創造する管理運営 詳細略

